

連城亭隨筆

特別
14
696
177



明治
十年

連城亭隨筆

拾七卷

吉

新
4卷
696
197

696
177

筆者 画者 兼 远藤玉昆

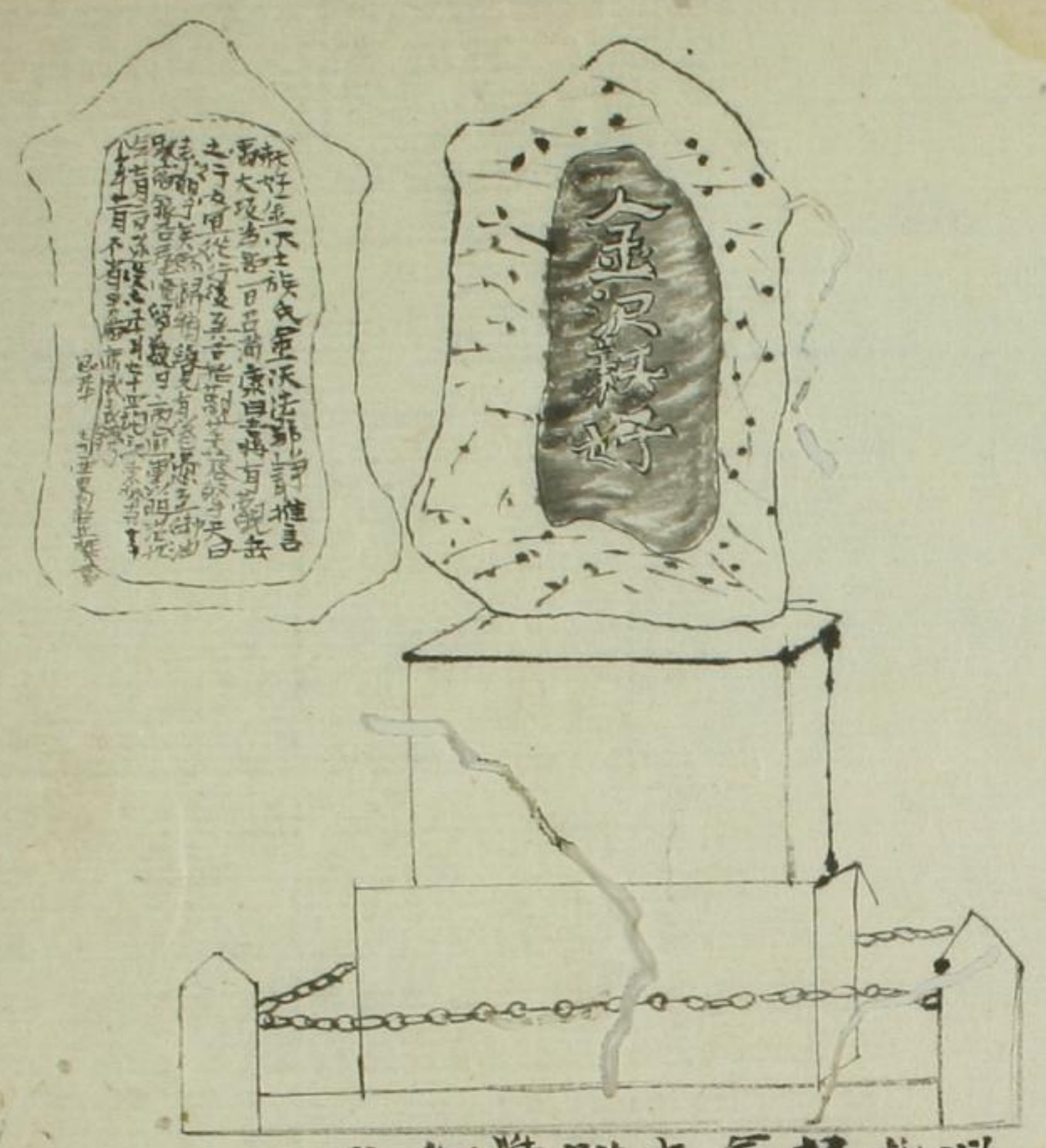
明治 元年

連歲亭隨筆

筆者製造所

連歲亭隨筆格古編卷之三

尾州玉昆誌

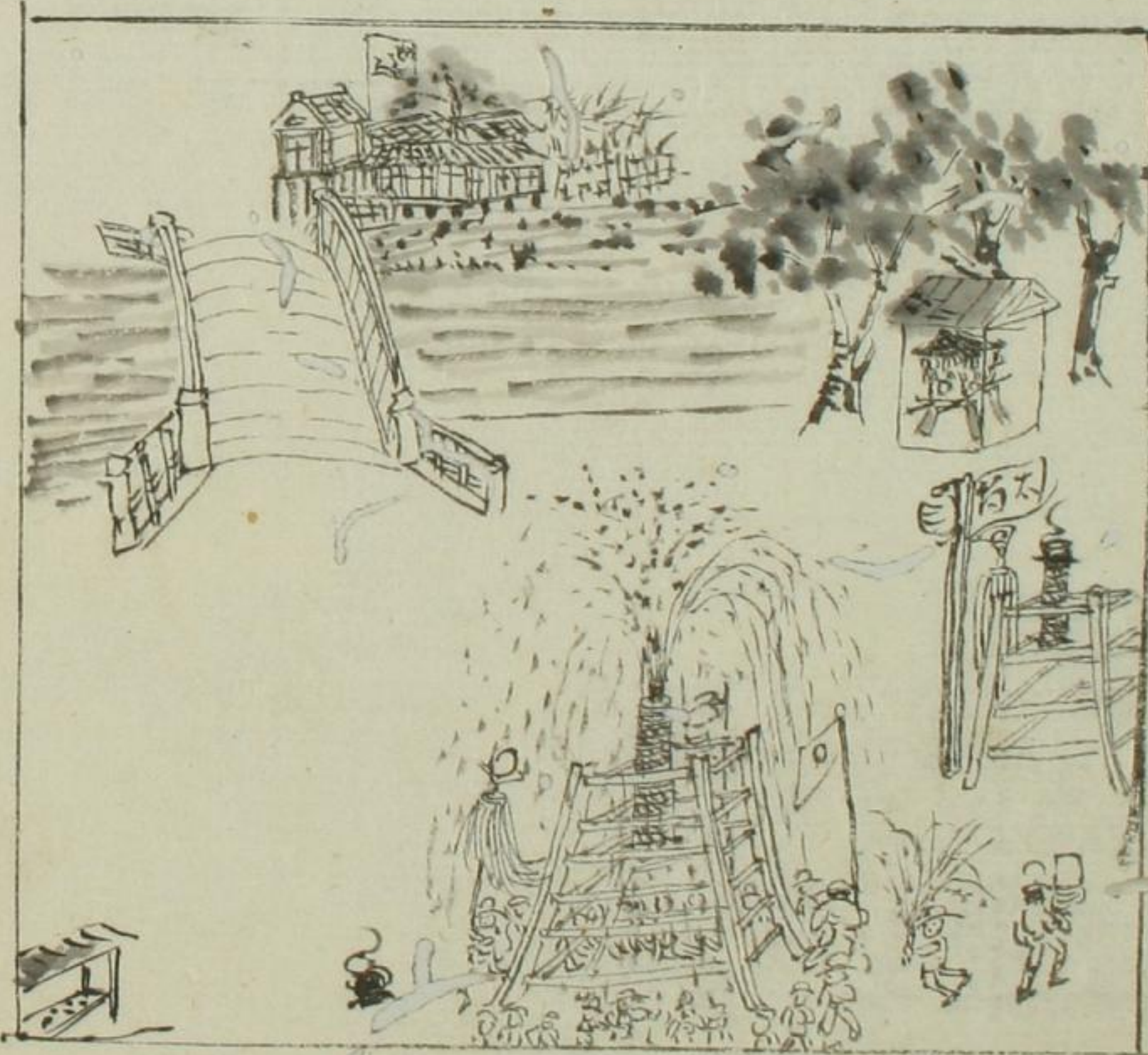


此ハ京師高ノ為ノ業ヲ為サト東海邊
松浦郡飯部御用取貯銀香屋ニ宿ス病氣
患起リ病ニ及ニ散々ツケナスハシテ病
重トナリテ 天明ノ明治九年七月日ノ
七年四年
此ノ筆ヲ持テシハ明治九年七月日ノ
此筆ヲ東林ヨリシム
我思シテ八月二十日行ハルニ此文ハ松
尾ノ筆リテ遺筆ナ

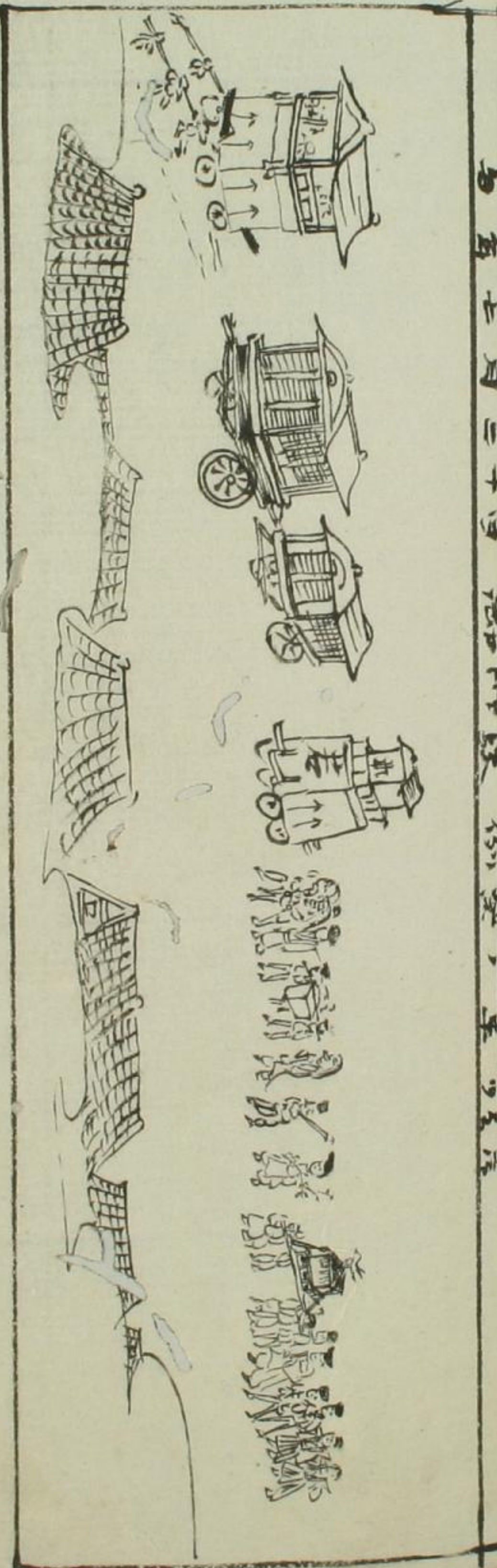
追分少将道大尉



音羽少将道大尉



明治二十五年四月十四日 追分少将道大尉



金城新報 第二十五号

明治二十五年 十月二十三日

天竺徳立エト仁木澤正トノ決闘
 藝題で劇場は仍然たノ開くと云ふ夜本天大開演ニ三百前の朝空匠れ
 衆所講談師高伯龍の定の前にて雨は身軀を流す小まやエーノナ
 人との小憩が浅れるは尚事にてと眼さ見ると大まな撥幕がナナノ開
 と嘘を右双方とも血汗にれになり人々世々セホ事ひ居しが氣は少しく
 負色ヲをリ遊んどうするの撥幕は外に在り望見は撥幕の爲に遊技
 されんとする外に又一匹の馬が来り二匹をたて撥幕人々免れは猶幕
 の中強さるる此大尉の見物人も山なし程りに鼠の三平のまきとて可り

大樹城

大樹

大樹

大樹

大樹

大樹城の歴史
大樹城の歴史
大樹城の歴史

696

大樹城の倒る 尾州喜部 天正村 喜部村 境内に数百年を経た大樹は長クニテ余
閉廻リ大ニ之糸の松樹アリシト云ハセ九日正午ナニ晴曇天氣晴朗トシ風塵を起
タカニ俄然中央ヨリ 柱折セシメ折レタ上木の近邊ニアラガヨリ該氏子の者ハ
大ニ驚キ之目下新築ナリ神樂所ニテの身が不垂カナリ神御心に甚クシ
但ハ近頃情浮薄に流レタコトヲ 押トノ恐ラニシハアニカカトシ御怒重
中ハソリソリノ増シ
大正寺深泉

東坡先生詩集卷之七

東坡

五言古詩

○有韻雜錄
○新刻
○弟

弟

弟

弟

弟



四子之... 山切年... 八... 山切年

身方... 山切年... 山切年... 山切年

西... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

三... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

三... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

三... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

三... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

一... 山切年... 山切年... 山切年

四... 山切年... 山切年... 山切年

○京都府四條市本町八

張り物 豊後國 相模 村山 桑名

あさひ 本家 松本 京都府 大和 桑名

あさひ 早稲 長生 桑名 桑名

あさひ 大和 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

あさひ 桑名 桑名

○酒造林高

女年

日

日

日

日

日

日

大頭 粉木

左 桑名

早稲 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

日 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

桑名 桑名

元禄十一年 西邊上之將政

西邊上之將政 於之京之方之方之方之方

西邊上之將政

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

北邊上之將政 於之京之方之方之方之方

○山莊置者入用之竟

竹竿子新羅人 兼之火羅人 亦火羅人 亦火羅人 亦火羅人

大小至有書文 南者至有書文 南者至有書文 南者至有書文

杖木 亦為杖木 亦為杖木 亦為杖木 亦為杖木

張如 乞之 書也 乞之 書也 乞之 書也 乞之 書也

德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

馬 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

大士丹 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

教 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

深泉 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

竹枝 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

如 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

年 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

右 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

年 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

本 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

竹竿子新羅人 兼之火羅人 亦火羅人 亦火羅人 亦火羅人

大小至有書文 南者至有書文 南者至有書文 南者至有書文

杖木 亦為杖木 亦為杖木 亦為杖木 亦為杖木

張如 乞之 書也 乞之 書也 乞之 書也 乞之 書也

德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

馬 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

大士丹 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

教 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

深泉 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

竹枝 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

如 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

年 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

右 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

年 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

本 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支 德支

下ろす ちんちん

山家 小別や金おさる 上平下平
我の鳴り 上の池乳替

○元元二年まき 根持の 中場を 扱を 扱を 扱を 扱を

花まき 根持の 扱を 扱を 扱を 扱を

○中の色部 扱を 扱を 扱を 扱を

○根持の

根持の 扱を 扱を 扱を 扱を

根持の 扱を 扱を 扱を 扱を

福平の 扱を 扱を 扱を 扱を

美の 扱を 扱を 扱を 扱を

根持の 扱を 扱を 扱を 扱を

乱途通ニ探偵スルニ其所在ヲ得ルニ血泣悲淚共ニ禁
ルルナカリキ旅僧ハキトヲ略誘ヒテヨリ豊後ニ到リ佐
賀ノ國ニテ中田ノ産良和ナレモ一ノ驛將ト稱シテ代ハニ
キトヲ以テス而シテ長和ヲ妻シモノキトヲ鞠ニテ
所モヲ偏重シテ國東郡好摩村安藏ナル者ノ家常毎
日居ル成何モナリ良和病ヲ得テ苦果ノ交ナリ其
妻亦私獨ノ夫ト晩走久是ニ居テ其妻不保ニ思ヒ
キトヲ救子ナリシテ妻亦子ヲ弟モ而ルモ貧乏ニ困
自ニ縊縊モ極フハカクナレハキトヲ同村鎮屋辰平ナリ
者ニ略附シテ二十二年是ヨリ先服後所好摩村安藏
後藏ナリ者アリテ其妻セム及其次女ヤエヲ携テ豊後
國津島志和頭成村ニ倚ル細烟ニ清光セシカメテ去
三年前ヤエノ房ニ宿テ世ヲ辭ヒ後藏亦之病牀ニ臥テ
前妻自活スルハカクナレヨリヤエヲ田邑伊代ノ分保

ニテ濱松村揚屋渡世李島喜多志ニ養育ヲ囑ヒ去る
而シテ情ヲ憫ニテ若年ニ養育シ後藏ニ所ニ將シヤ
七歳ニ其母ヲ稱長ルニ及ニテ明和元年六月八日
凶後藏セテ死シテ其母金百石方量以テ遺リ七郎ニ
明年肥後國熊本島前吉田宿年九者ト金九十石ニ
死シテ其母未タ物有ナラシメテヤエ自ラニ養育シ
大津郡平川村字六重末ノ産食田其ハノ女ニテ幼少
藤僧ニ略誘ヒテ終身ヲ此ニ沈ムト此ノ言ノ遠通ニ
流傳シテ終ニ其ハノ父夫婦ノ間リ所ナリト夫婦ハ年
年足ノ體ハ少シク先妻一子ヲシテ吉田宿年九者ト
養育シ八重ニ嫁ハシルニ客籍其子似ルカカク然リ
因テ火傷ノ痕ヲ胸ハ在リト答ラ然レテ疑念ハ
未タ解セシ全射ヲ漫騰川一ノ嶽ニ張リ在ルアリ婦
瘵積子ノ其母ノ愛念腫光ニ暗ニテ以テ存ク

容貌ノ變ルニ成長ノ因テ然ルナラズニ痕ノ小シク成長ニ因テ
痕ノモナラズニ是ニ治テ始メテ親子ノ若ク傳工年ヲ執テ
相悦クテ海ヲ不日ニ願フ可クト云テ別レ而シテ婦人ニ
歸ルニ事ナリ其ハ二告ル甚ハモ亦喜躍ニテ止マズ連ニ願フ
未キ自其ノ自川臨履ハ証ナリ是ハ以テ証ニ疾走ツ夫婦ト
八重ヲ呼ビヒ之ヲ乳スニ口俟符合シ少シモ疑ヒテ容ルルハ
十ヶレハ八重ヲ勝年ヨリ其ハ八重トシテ下合ニ然レ
尺勝年力殆ハ八重トシテ善クヤ大金ヲ地テ以テ一則年
多ク中ハ治路是ニ集ルルヲ以テ實至七節ニ迫ル七節
亦喜年治路ヨリ其ハ喜年ヨリ後前ノ人ヨリ云フニ是ニ
此實ノ如クニ事ナリ其ハ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ
餘款判ト大分縣禮ニ乞フ及該縣林ヲ年連ノ者ヲ
訪庭ニ立ケヒ之ヲ敷取寄禮ノ未情状ヲ白川
野庭ニ遷送シ其ハ事ヲ異トスルヲ原因トシテ

目撃再ニ証候ニ因テ勝年ヨリ八重ハ其ハ八ノ子ニ亦喜年
治カ言ハ其証アルヲ陳ス依テ白川縣禮ヨリ宮地ノ小高其
此七者ノ物ヲ推知スルニ亦喜年ヨリ供取寄禮ノ男ト云フ
其ハ八親子ノ供取寄禮ト云フ其ハ小高ト云フ其ハ二百
金日給ルル南来ト云フ其ハ七女ト云フ其ハ喜年治路ヨリ
乳彈丸ニ事年治路亦大ニ其ハ縣禮ニ陳ル所ト異ト云フ
其ハ八親子ノ供取寄禮ト云フ其ハ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ是ニ
喜年治路ヲ証候トシテ其ハ二ノ指証ニ及フニ至リ喜年治路
伴リカラス格証ノ証ニ有カラサルニ其ハ察知シ滝藏ノ
子ト陳ルルハ格証トシテ其ハ八ノ女ナルニ証候ス誰カ其証
佐人ト云フヤト問フ東村ト云フ其ハ喜年治路ト云フ其ハ
喜年治路ト云フ其ハ喜年治路ノ口供ハ相應スルヲ以テ其
年治路ト云フ其ハ喜年治路ト云フ其ハ喜年治路ト云フ其ハ
喜年治路ト云フ其ハ喜年治路ト云フ其ハ喜年治路ト云フ其ハ

入軍ノ時喜多治カ強擧ニ証服スルノ情ヲ通シテナリ
然レテ喜多治ノ故村ニ喜多治ノ宛テ書カテ擧テ訊ク
喜多治ノ其國ニ通スルヨリ擧テ傷悴其時肥後
鼻ノ聲ヲ連テ聞者亦擧テナルナリキ者時肥後
喜多治不知大津港ノ力者アリテ西下ノ辰偶ニ四
東部下出岸港ニ故泊上陸ニ後年カ定ニ至ル證家ハ
キトノ事ヲ養ハシニ此ニ備仕スルハ出テ不知火ニ其國
所ヨリ大津港ノ肥後大津ナリト云ヨリキトノ事ヲ
動キ如大津ノ事ヲ又自己ノ身上ヲ記テ其父母ノ
安否ヲ問フ不知火モキトカ愛情甚深ノ情ヲ酌量シテ
其ニ懐泣ク曰フ然レハ當テ擧テ所ノ甚ハカメカ
此行テト道ヲ同フセヨトキハ之ヲ成年ニ記シニ茂
年テ領スレモ此ニ安藏ノ籍ニアルヲ以テ是ヲ官ニ
請テ然レ後ニ事ヲ行ク人トシテ此書又ノ類見ナム

一キアルカ以テ去テ別府港至ル中一タ入今此書ニ及テ將ニ
在年治カ親縁傳カテ是レ天ノ助ルナラシト擧テ不知火カ
後寓ニ泊リ事ヲ聞クニ果ニテ其家ヲ訪テ其親縁ニ求テ
ハト雖モ若クハ縁圖ノ意トモモカキテ誤リ親縁ニ求テ
其八婦人ノ面談ニ懇カシテ又造ナル者ヲ收メテ置テ
其八婦人ノ事ヲ以テキトニ達シテ其後復テ同クニ更ニ差テ
所ヨリキトノ事ヲ以テ是ヨリ親縁再會ニ至ル宛テ大津縣ニ
訊ク喜多治ノ事ヲ記シ若シ喜多治カ一證ノ事ナラバ
シカト再ニ再四出テ正スニ事ヲ尋テ置テ其記法ヲ申ス
彼年連ノモノヲ曉ヒ其情ヲ書カシテ喜多治カ証
據ナルノ証アルヲ以テ當テ官史ヲ白川縣ニ達シ官史
行テ其官史ニ由テ六里ホニ達シ後官カ親縁及シ其八
等ノ家ニ泊リ留三日百方探偵ニテ其書又官史
得以テ白川縣ニ列リ東部ノ事ヲ放テ述リ同縣亦

不火ノ事ハ何事ニシテ疑心ヲ生ズル際ニ至リテ
討請即日喜年治カ後カ放テ其ハ夫婦及ヒ八重并ニ
キト放年ノ事ヲ告ヒ而將官自ラ其後訪テ其ハ
明徳七年三月十日其ハ夫婦并ニ八重ノ供状
傍所ニシテ不ノ百方寄書札ルモ親子ノ証佐ヲ連テ
只前傍ヲ疑サハルノ事ヲ疑テ其ハ夫婦并ニ八重ノ
如ク己ニ入事ヲ辨セザレバ是ヲ以テ決案ヲ他日
護リ候キトテ其ハ夫婦并ニ八重ノ証佐ヲ連テ
八重ノ寄書ヲ見テトキテ其ハ夫婦并ニ八重ノ証佐ヲ
惣望流涕ノ事ハ心ノ意ヲ示サレテ長シク其ハ夫婦
或ハ莫ク其情ノ至誠ニ信ル判定ニ亦自中ノ時後
一濕中覺レ是ヲ以テ判使子等万化術ヲ盡テ
或ハ疑ニ或ハ成ニ以テ夫婦并ニ八重ノ証佐ヲ連テ
更亦疑キトテ答ルハ其ハ夫婦并ニ八重ノ証佐ヲ連テ

火傷ノ痕ノ在ルアリ乃之ヲ獄医文禮ニ有ニ奉ヒ之カ
ニ被痕ヲ検査セシムニ皆火傷ニテキハ傷ハ還テ疑ニキ
者眞蹟ノ由テ復一疑團ヲ生シ終再ニ病院ニ至リ
テシムハ一也又テ檢ルニ其鑑キトテ被痕ヲ火傷トシ
八重ヲ清病ノ被痕トシテ証言ヲ出ス是ニ於テ
始メテ八重ノ冒稱ナルヲ認メ其ハ夫婦并ニ八重ノ証
罪ニ及ビ初メハ八重カ遺藏ノ事ナリト相和ト官書而シ
其証ナク依頼ル方モナレハ幸ニ天里未甚ハカ女ノ云ニ
有ルハ聞キ以テ造言ナルニ果シテ其ハ夫婦并ニ八重ノ証
所トシ其妻ヲ訊問ニ方テ子トシテ其ハ夫婦并ニ八重ノ証
生シ若シ他ヨリ官字ノ出ルハアハ官字ヲ以テ重下世ト
以テ其由其結ルニ至リテ白狀ス依テ判受其ハ夫婦并
以テ手ト下テ其ハ夫婦并ニ八重ノ証佐ヲ連テ

守護國界志

日景物ヲ以テ珍器ト唱レ傳來ノ戲文等ヲ添ル

モノ或ハ此体ニ做リ新發明器杖等ヲ出スモ妨ナシ

右會每季前八時ヨリ午後四時迄會至輪番ヨ

以テ相催候御秘藏并御賣物共澤山御出品名揚

晴雨御來車奉奠候

席上切手一枚金十二匁其後飯屋酒御

將參ハ御通宜ナリ

四六八十三月

淺草橋外第六天初茶亭

定筵

七九十月

深川八幡社并松本後月花園

會至

三金

鶴舟

龍吟

會并

轉 三 堂

古人曰仁義不明則天下茫然而萬民愚昧也風俗左僻則禮法頹敗而邪術忽興下誠ナルレ故今時字内ノ私勢既ニシテ此極ニ至ルソレ仁義禮智ノ道ハ伏羲神農黃帝堯舜ノ天ニ繼テ極ヲ立ル所以ノ法ニシテ而是天ノ教令ナリ況レ皇朝ニ於テハ

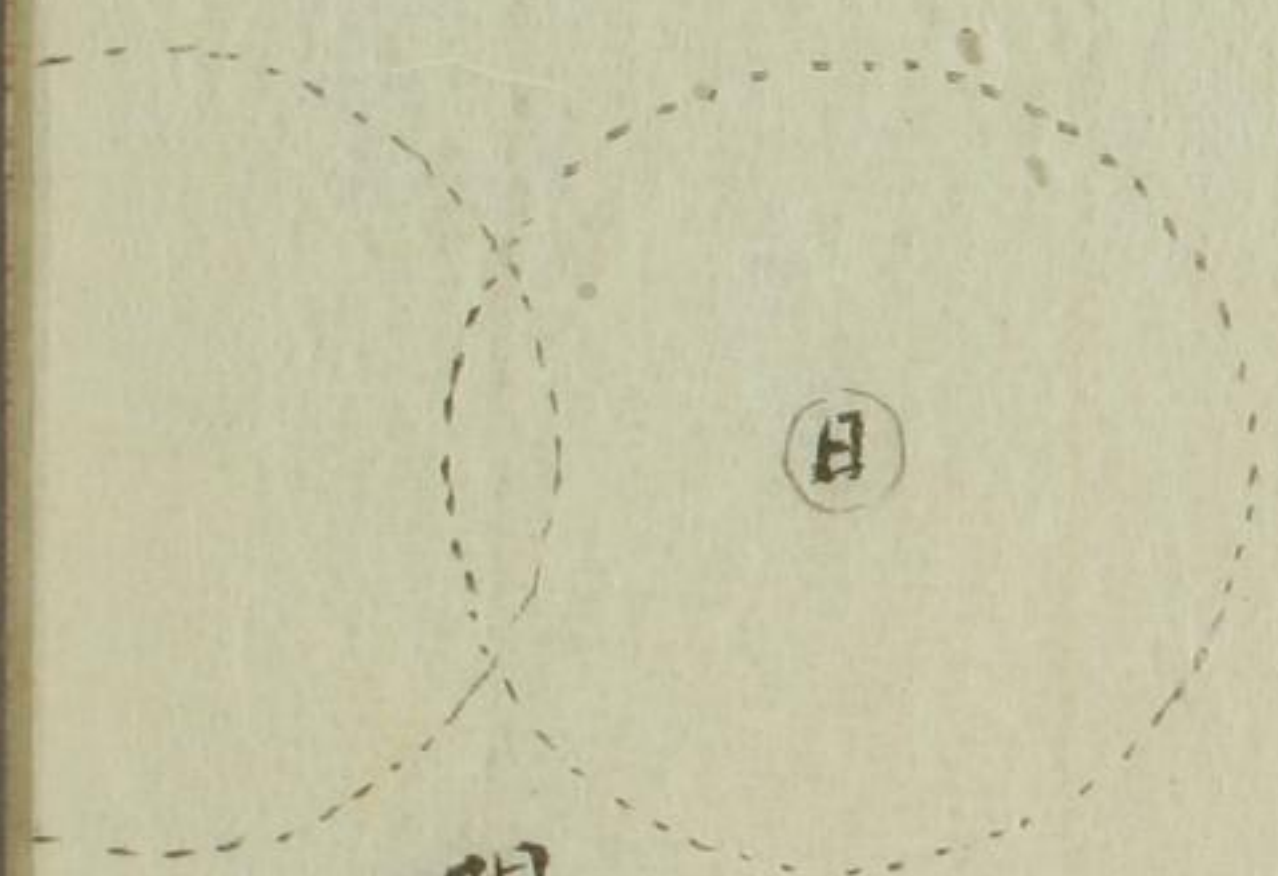
神祖

神孫統ヲ紹テ國家ヲ保タマハル所以ノ法ハ若臣忠誠ノ道ヲ以テ先トシタマフコレ曾テ庸常凡人ノ私意ニ出ル物ニアラヌ然ニ近年西華ニ移カレ世人多クハ禮法ヲ廢シ又チ易ルニ利欲ヲ以テラス仁ナク義ナリ互ニ利欲ヲ爭フヲ以テ勤トスコレ國家ヲ榮茂スルニ似テ

却テ凋滅ノ基ヲ築ク者ナラシ孟子曰上下文
 征利而國危矣ト是ヲ以テ國國ノ弊習ヲ改革
 セシメニカクメニ近年天變ノ徵應頻ナリト
 不ハハモ一昨年ノ天變ハ昨年ニ忘レ昨年ノ
 天變ハ今年ハ忘却シテ恰モ水ノ流ヲ見ルニ
 似タリ天亦是ナク何ヤシ吾曹近來視聽以ル
 所ノ天徵ソハ大ナル物ヲ記シテ坐右ニ留置
 道業ノ餘暇時時此ヲ觀テ一六以テ懼レセハ
 以テ悲ム其記ニ曰
 嘉永六年癸丑秋ノ初ヨリ妖星將々ニ出ツ
 同七年甲寅六月十四日夜大地震
 同十一年一月四日朝五時大地震
 同日五時ノ後大地震

安政三年乙卯夏ノ新樹木生シ葉々噴技植ニ至ル
 以テクニヤリ
 同三年夏有別嶺田領三田中前生シ苗穉々喰ク一日
 同三年十月夜江大胎
 同三年十一月夜江大胎
 同三年十二月夜江大胎
 同三年十二月夜江大胎

暈日童雨



閩國分離ノ先兆ナラシ

同年六月熒惑天市垣ヲリ辨日ヨリ六日ニ至テ熒惑ソノ取
大ナル常ニ居スソノ光亦益ホシ

天市垣

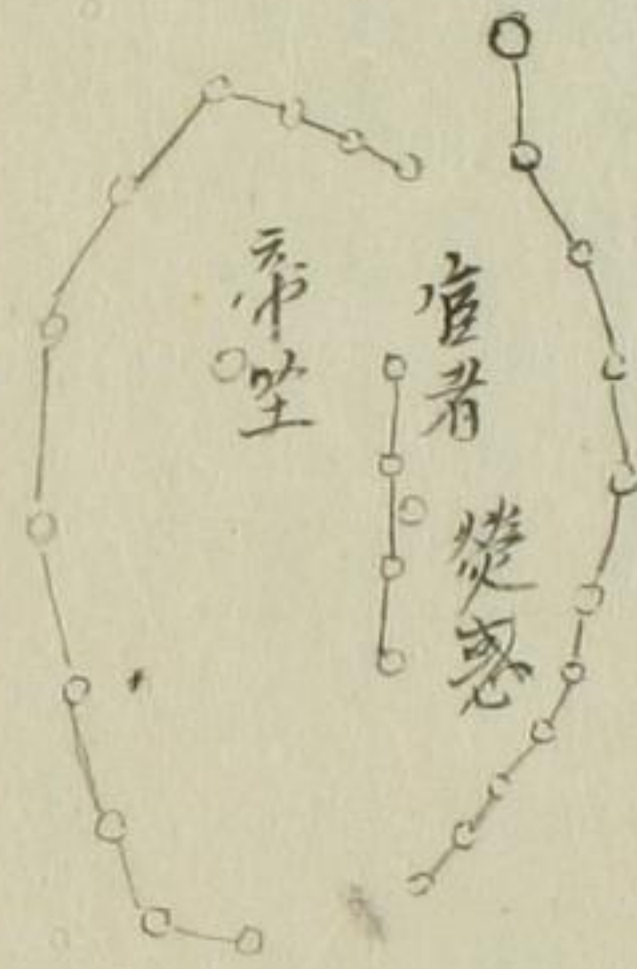
二十二星



市中大火災ノ徵

同年七月廿日熒惑天市垣者ヲ貫ク

王候ニ害アルノ徵



同年七月十四日 一夜ヨリ十六日夜ニ至テ月ニ向テ色ノ變

夷狄本國ヲ犯スノ徵

夜虹

同年八月初旬ヨリ妖星出ス九月ニ至

妖星

亡國ノ兆

發氣長九間中八九天

角星 妖星 分月中角星角宿ニ近シ



天文元年十月十九日國中刻大明東より西に至り
 同月二十七日戌初刻火聚西より東に飛ぶ數七八つ
 同二年壬戌正月廿五日夜好星紫微宮内二
 在る氣あり宮外に露降る廿六日好星宮外に出



宮師地り乱り終る微

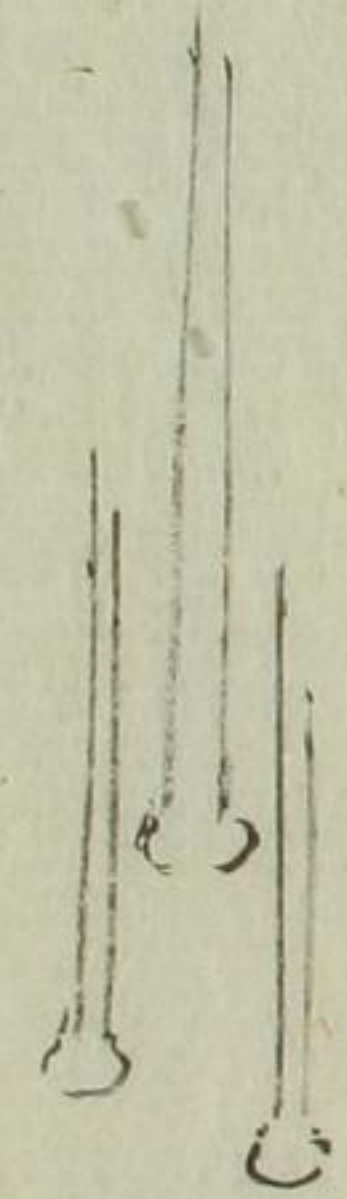
同三年癸亥七月十日相り同十五日二子より一夜に
 雲散り三粒キ人物成る又二現る成り刻り至り
 至り

異秋雲



英秋本國に起る兆

同年九月二十七日夜星刻 星階ツ 數三



同四年甲子七月十九日皇都大亂
 慶應二年丙寅四月廿二日好星雨日見
 同三年丁卯四月廿九日好星雨日見
 右兩年後ハ國國奇難ノ兆ナラン

百鬼夜行... 鬼ノ類... 清淨... 神國... 狐狸ノ類... 今更ニ神國ノ威徳ヲ...

御必者... 御必者有身... 嗚呼是ルニ... 心法ヲ... 大王國土... 劫四百姓... 異二十八宿... 心ノ妙乱... 天下ノ大恙...

こくろつ 神ノ祠ルノ社人 佛ヲ奉スルノ僧
侶是尚四海ノ五ナリ何リ國界ノ崩タ舞存ニ見
ナサレ伏シテ請リ盟社連信ノ衆共ニ志ヲ均リ
シテ常ニ鎮護國家ノ寶典無疑時ヲ講持シ五
善ヲ奉テ長ノ心ヲ調ヘ
聖朝安隱ノ洪基ヲ堅實ナラシムヘシ甚茲隆ノ行ノ
中ニ精進沙羅臺ヲリ勤テ怠ルユトナカシ

たのむるに似たりをいふのこし

法のやりのこし
わらわら

慶應三年丁卯十月

景正卷七十三前

釋靈遊

護法盟社連信象中

堅禁地見

當未變經云

若右比丘奉戒護律法當又存乃至入佛法中求作
沙門破佛法更相輕毀學三藏者轉相嫉妬為嫉妬
故佛法滅欲護佛法當除慢棄指嫉妬
無消息云

羣臣の別カ、首自削の辨物と、秋、燈、祭、事、の、宛、も、空、事、異、が、此
入念、難、ん、め、は、金、銀、首、由、め、る、れ、夫、の、好、の、誓、不、か、家、貴、
と、有、り、と、言、ひ、自、削、合、め、る、事、は、天、下、の、誓、物、が、是、天、下、の
誓、物、と、い、ふ、業、事、を、有、格、に、お、し、め、の、誓、事、の、所、を、私、を、
己、も、節、儀、を、部、を、さ、さ、り、根、を、惟、世、の、人、を、節、儀、を、さ、さ、り、
其、格、に、い、は、し、ま、る、屋、を、い、せ、世、の、人、を、誓、物、と、受、く、其、格、の
者、一、同、米、食、ま、さ、り、尚、其、格、の、者、り、し、て、節、儀、を、さ、さ、り、
世、の、人、の、救、射、と、誓、事、を、こ、し、ま、さ、り、誓、事、を、い、は、し、
是、誓、事、あ、る、者、の、所、を、己、も、世、の、人、を、誓、物、と、受、く、
其、格、に、い、は、し、ま、る、屋、を、い、せ、世、の、人、を、誓、物、と、受、く、

○任吉祠前通

世風和枝由来

若、越、の、枝、の、根、深、を、尋、り、昔、伊、弉、諾、尊、陰、神、の、濁、穢、
物、を、心、を、清、め、ん、と、筑、紫、の、日、向、の、小、元、の、橋、の、橋、原、に、
い、つ、も、の、枝、原、の、是、我、國、枝、の、始、其、海、の、東、潮、の、中、
潮、の、上、三、節、の、枝、の、中、御、心、を、底、向、男、中、高、男、表、高、男、
右、射、し、ま、祭、事、今、の、任、吉、大、神、宮、是、こ、の、任、吉、の、神、を、
枝、野、の、神、と、い、ふ、形、玉、と、い、ふ、あ、ら、ま、り、ま、る、丈、枝、を、い、
は、し、ま、る、任、吉、を、清、め、り、し、ま、る、外、の、社、も、水、邊、に、い、は、し、
ま、る、皆、此、心、を、ま、り、お、し、ま、る、扱、六、月、晦、日、と、定、め、り、
一、年、の、半、う、つ、春、暮、の、陽、の、中、に、是、う、つ、秋、分、の、陰、中、
に、い、は、し、ま、る、陰、中、の、物、を、ま、り、お、し、ま、る、神、を、拂、ひ、除、
其、世、風、を、心、を、清、め、り、し、ま、る、枝、原、の、神、を、い、は、し、

○燕雀の火曜の志を志す
○唐人の聖賢の言を志す
○純聖忠臣の志を志す

神統

切石の志を志す
久しき志を志す

千代松大八郎の志を志す

切石の志を志す
久しき志を志す

ふみ

山

天皇

在石上八幡宮の梅山

右山と地山と年々銀毎年雨季

春を豊せりよよ
交を豊せりよよ
ふしを豊せりよよ
命を豊せりよよ

山と地と年々銀毎年雨季

山と地と年々銀毎年雨季

山と地と年々銀毎年雨季

上人愛岩乃瀑布中より日の苦行を平 荒く又七日断食の行に満
 願を成し 結縁の諸人 大念を授け 或信者も縁を画る長く世に縁を
 断る 眞の眞を成し 本山光册子の大和のよきく 替題のよきく
 縁を成し 誓願の書に 堂上掲げたるを 痛寫す

毒本山光明閣空管の口

遙想須摩提 共排難修 共排難修 共排難修
 共排難修 共排難修 共排難修 共排難修
 共排難修 共排難修 共排難修 共排難修

南無阿弥陀佛 誓阿方

四時唯單服時雨之廢堂中
 晝夜專一行寒熱或苦辛
 木食支身命泉浴洗心神
 潜籠西岳宮多歲遠塵壑



乙亥七月廿八日

中興祖院 申酉第一宮 長身 申酉第一宮 長身
 申酉第一宮 長身 申酉第一宮 長身
 申酉第一宮 長身 申酉第一宮 長身

真唐田一宮 壯碩 虎張田 申酉第一宮 長身
 申酉第一宮 長身 申酉第一宮 長身
 申酉第一宮 長身 申酉第一宮 長身

朱印 宣文 乙亥七月廿八日

常寬院 慶朱印 宣文 乙亥七月廿八日
 宣文 乙亥七月廿八日 宣文 乙亥七月廿八日
 宣文 乙亥七月廿八日 宣文 乙亥七月廿八日

本高檀社奉
三條

交恭院殿朱印天保十一年九月
慎律院殿朱印天保十一年九月
温恭院殿朱印天保十一年九月
昭德院殿朱印天保十一年九月
各交之言回

真清因一宮社額之事

尾川 休想我 一宮村 力高 二宮
三條 三石 六甲 二石 二石 二石 二石
我合名 印信科 古高 寺 寺 寺 寺
修理科 古高 寺 寺 寺 寺
車科 古高 寺 寺 寺 寺
田科 古高 寺 寺 寺 寺
社 古高 寺 寺 寺 寺
社 古高 寺 寺 寺 寺

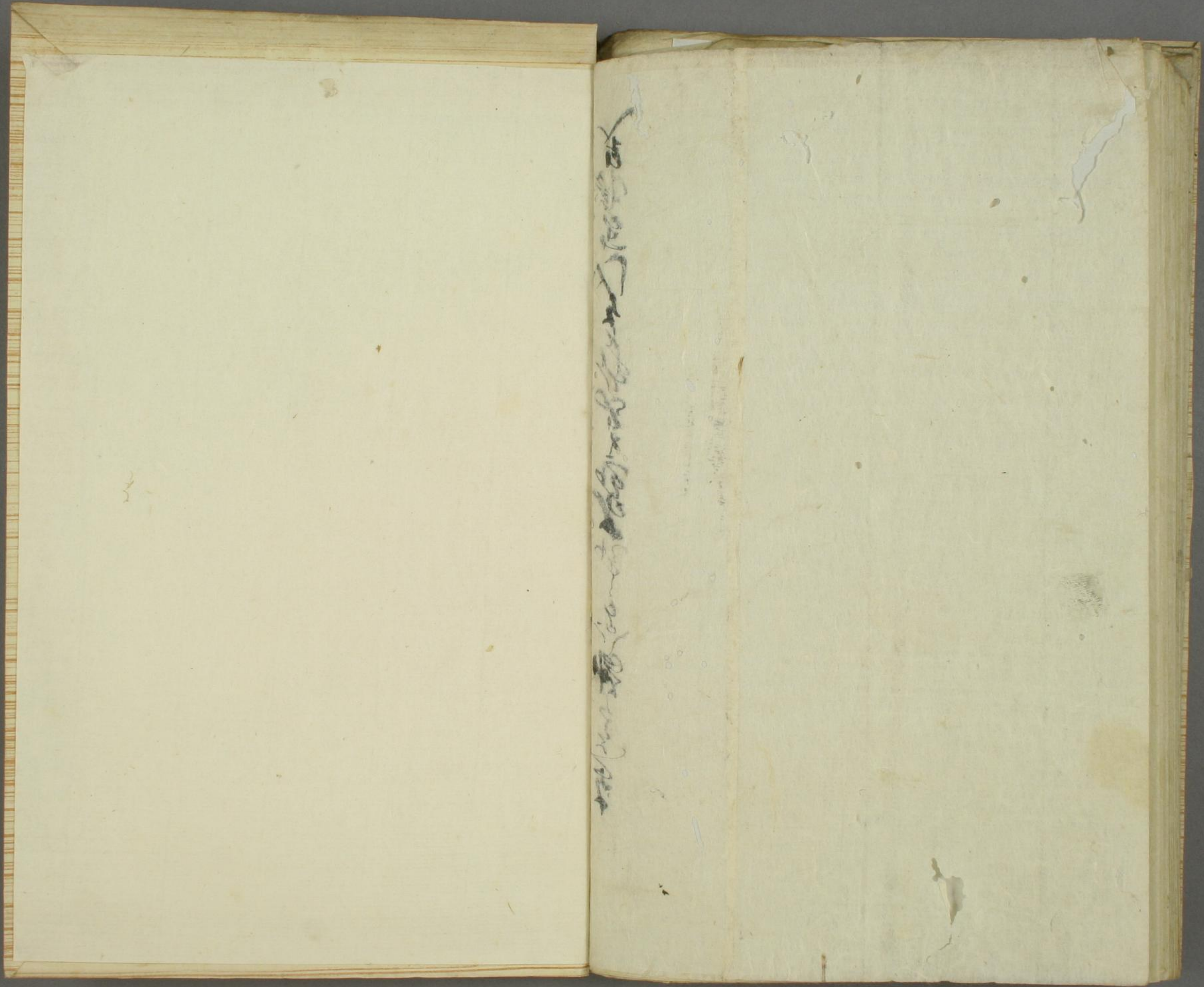
美直最

寛永拾年二月五



一宮
社 至

商之獨出始末之
年終之
公之



[Faint, illegible handwriting in the gutter]

